

(様式第7号)

地域の課題解決のための活動報告

記入日：令和 6年 6月 14日

作成者：杉田俱子

地域の課題解決のために行った活動を1つ選び、できるだけ具体的数値を挙げて報告してください。すべての項目に、一般の人に伝わりやすいようにご記入ください。

*この報告はあしや市民活動センターのホームページに掲載されます。

(登録を公開している団体のみ)

団体名	
芦屋市身体障害者福祉協会	
事業名	日時(期間)、場所
第1回ユニバーサルカワイイ 共同主催	令和5年5月7日
第2回ユニバーサルカワイイ 協力	令和5年12月10日
内容(実績) *実施したことを具体的に	受益者数
第1回 障害者や高齢者など外出することもカワイイ物品に触れることも難しい方々に、芦屋市内あるいは近隣の店舗に一つの場所(リード芦屋)に出店していただいた。当事者及びその家族や関係者に生活を豊かにする物品を身近に感じてもらえるこの企画に身障協会も手作り雑貨、手作り菓子などを販売して身障協会の存在を周知してもらえた。	(500) 人
	参加者数
第2回 ブースに店舗は出さず、トークショーの時間に肢体と内部の障害者が司会をして視覚障害会員が目が見えない生活を具体的に話して集まった一般の方々に視覚障害への理解を深めてもらう機会とした。	(100) 人
成果(社会へのインパクト) *どのような良い変化を社会にもたらしたかを具体的に	
第1回、第2回とも聴覚障害者との意思疎通を図るために、店舗の種類ごとに必要な最小限の会話のコミュニケーションボードを作成した。 店舗によっては、実際の店舗でもそれを使用している。 「芦屋市共に暮らせるまち条例」の具体になったと自負している。	
今後の展望(どのように継続、発展するか)	
身障協会の会員100名だけを対象にした活動だけでは会が継続発展することは難しいと考えます。現状は身障協会が芦屋市に住む身体障害者約3000人のためにできることは少ないと思えます。会独自の活動に加えて、会以外の団体と協働しながらより広く参加していくことが必要と考えています。その広いフィールドで身障協会の存在を多くの一般の方々に知っていただくよう努力します。	